

帝キキ声屋時代映畫

原作並脚色者 市村房江氏  
監督者 佐藤樹一路氏  
撮影者 二宮義曉氏

主要役割

小天狗平助 明石 綠 郎氏  
生不動の長兵衛 中村 翫 曉氏  
銀杏の六兵衛 千草 恒 香子嬢  
伊藤彌左衛門 阪東 豊 男氏  
浪江 泉 清 子嬢  
品川幸吉 賀 川 清 氏

【略筋省略】

戀に悪まれぬ男の皮肉な死を痛いたラストの狙ひ所が帝キキ映畫には珍らしい新解釋であつた事が印象に残つた。其衆の賞讃の言葉を冷かに聞いて血だるま張りで自殺する小天狗平助の最後の描寫は相當凄然と氣分を出して居る。明石綠郎氏の演出は先の「籠釣瓶」に於る治郎左衛門より成功して居る。佐藤樹一路氏の監督もラストが最も良い。他は平凡な場面の演繹にすぎなかつた。千草香子嬢のおきたは平助に對する心理描寫はつきりして居ないので柄ある役ながら餘り領けなかつた。泉清子嬢の浪江は段々長くなつて來た。それに扮裝が益々牛野初子に似て來たのは妙である。

山本 綠葉

興行價値——ハッピーエンドに終つて居ないか

ら一般の觀客には喜ばれないかも知れないがその代りラテンはラストを稱えなくてはならぬ。(一月五日 大阪芦邊劇場 神戸相生座 京都キネマ倶楽部等封切)